

それで大丈夫ですか？

先祖への供養

お檀家様のお家へは、毎日の様に日替わりでお伺いしています。月命日の回向供養を目的に、お仏壇の前で読経させて頂きにお伺いさせて頂くわけです。通常月1回の御回向ですが、御檀家さんの中には、月2回、3回、そして最高が毎月4回もお伺いさせて頂いているお家もあるわけです。まあそのお家は、私から見ても大変熱心なお家ですよ。もちろん強制では無いのですが、最低月1回は親先祖に思いを馳せる御回向の時間を設けて頂きたいと思っています。ということで、今日のお話は、亡き親や、ご先祖様へ捧げる『供養』という事について皆さまと一緒に考えていきたいと思えます。

唐突な質問ですが、「今あなたが、ここに存在しているのは何故でしょうか？」という質問です。そんな事、考えた事ありますか？実は、この問いを一度は真剣に考えて頂きたい問いでもあるんです。

「自分はどうかやって生まれたのか？」と言うことですが、それは間違いなく、両親から生まれてきたという事ですすよね。「1人で勝手に生まれてきました」なん

ていう人は、何処にもいないわけです。どんなに素晴らしい人、立派な人、また皆から嫌われている極悪犯罪者と言われるような人もみんなに両親がいて、また、ご先祖様が間違いなくおられます。

一人で生まれ一人で生きてるように思われている人がいたら、それは大きな間違いです。おまけに、生まれた後も一人で生きていくという人も勘違いです。人は一人では生きていきません。社会というコミュニティの中で人と人がお互いに、生かし生かされ、支え合いながら生活していく他ないわけです。

私は今、人の親です。子供達にもよく話することですが、私にも子供時代がありました。私には父親と母親がいます。その父親にも父と母がいます。母親にも父と母がいます。この父母にもまた父母がそれぞれいます。これをズーツと辿っていったら、キリがないくらい膨大な数の親様、ご先祖様が存在しておられた事実が付けます。そんな膨大な数の親達が、ずっと命を繋いできて下さったという事は、ただ単に、子供の命が授かったというだけではなくて、親やその周りの人達が、その赤ちゃんに愛情を注ぎ続けてきて下さったから、ようやく一人の人として、成長することが出来たという事実がありますよね。そうやって1人1人に、**親子を想う気持ちを持つて、愛情を注いで育ててくれた。それが親という存在である**と言えましょう。

その想いに感謝と報恩の気持ちで応えるのが、『供養』という事でございます。

「供養」と言っても色々な供養がある訳ですが、やはり一番馴染みのある供養は、**先祖供養**ということになると思います。あるいは**水子供養**という事もあるでしょう。いずれにしても、この『供養』という仏事。特に若い方には知っておいて頂きたいと思つていきます。一昔前までは家のお祖父ちゃんやお祖母ちゃんから伝言聞いていた『供養』というお話。今では核家族が進んで、お祖父ちゃんやお祖母ちゃんから教えてもらう機会も、殆ど皆無と言つていいかもしれません。

ところがそんな『供養』を怠ると、自身身を苦しめる事にもなりかねません。私達が、人生最後を迎える時、最も不安な事は、**死後自分はどうなるのか？**残されたものはどうなるのか？ということではないでしょうか。

お釈迦様は、靈魂という存在に対しては、あまり「黙して語らず」という態度を取られたように伺つておりますが、一方で「供養」の仕方については、お話になつておられます。『供養』というのは、**元々「お供えを捧げる」という意味**なのです。お経やお香、灯やお花などを神さま仏さまに、お供えいたします。これも『供養』です。あるいは、法事の席に参列して頂いた方に御膳を振る舞う。これもひとつの『供養』となります。つまり、**自分以外のモノに対して何かを捧げるという行いを「供養」と言います。**そんな『供養』には、色々な概念があります。家の中に神棚、仏壇を祀っているお家も少なくありませんよね。そこには、お水や、食べ物

をお供えいたします。まあ今では、家庭内でも無関心という事があります。神棚やお仏壇も持つていないという家もあるわけですが、一昔前までは、『供養』の習慣が、ごく身近なところで日常的に行われていました。では、何でその供養が大切なのかつていう事なんですけれども、**仏教には回向**という言葉があります。「回向」というのは、**回向の「回」は、回転と書いて「えてん」、**「向」は趣向(しゅこう)という意味ですね。つまり、**自分自身の積み重ねた善根や功德を、人に振り向けて与えることを「回向」と言います。**

回(まわ)して向(む)けると書きますが、自分が持つている物を周りに施します。そして振り向けられた物が、最終的にまた、自分のところに戻つて来るというのが、この回向の意義でもあります。施せば施される。ただし、見返りを求めて行う回向には意味がありません。下心無しの、真心からの施しが大事です。人間関係も同じ事ですけれども、した事は必ず返つてくるというのが宇宙の法則です。**善因善果、悪因悪果。**善い原因は、善い結果を招き、悪い原因は、悪い結果を招く。つまり因果応報とは、正にこの事ですね。**日蓮宗では、肉体を離れた魂は『靈山浄土(りょうぜんじょうど)』に行くという概念があります。**極楽浄土はよく耳にしますが、**靈山浄土も、仏教で教える浄土の一つです。**靈山(りょうぜん)というのは、お釈迦様が説法を行ったインドの靈鷲山(りょうじゆせん)のことです。《法華経(ほけきょう)》という教えは、

靈鷲山で説かれました。靈山浄土とは、久遠（くおん）のお釈尊様が、常にそこにおられて教えを説き続ける永遠の浄土とされています。また一方で、浄土という「悟り」の立場から見れば、私達が生活している、この現実の娑婆（しゃば）という「迷い」の世界は、実はそのまま仏の悟りの世界である、と。

つまり浄土という、どこか他の世界が、別に存在しているわけではなくて、私達が生きている現実の世界こそが、まさに浄土。『娑婆即寂光土（しゃばそくじやつこうど）』という思想でもあります。日蓮大聖人がおっしゃるのは、靈山浄土という所はこの苦しい現実世界という、「今・ここ」に、いながら体感できる浄土であると喝破されています。お葬儀の時に私達はお経を唱えて、故人にお亡くなりになったことをお伝えします。これをしつかりしませんと、亡くなったことも分かりませんし、何処へ行っていいのかも分かりません。極端な話をすれば、成仏することができないわけです。誰からも供養してもらえない。寂しかったり、未練もあつたり、誰からも構ってもらえなかつたら、自分の存在に気づいて欲しいわけですから、色々と私達にメッセージを送るようにもなります。ですから、お葬儀、御供養というのは大変重要なんです御供養の意味、思想は、お分かりいただけたかと思えます。

という事で、先ほどの回向、供養の話を踏まえますと、例えば生前の行い。自分

自身が他人に無関心で、回向供養もしなければ、将来、自分自身が誰からも回向供養されない身となって、寂しい思いを抱くこととなります。これは生きている今、現在も同じ様な事がありますか？例えば一人ぼっちで、あまりに寂しくて、誰かに気づいてほしいという思いから、周りの人に、ちよっかいを出して困らせる子供。これが死後の世界だと、生きている人間にちよっかいを出したら「出たあゝ幽霊が出たあゝ」って怖がられるみたいな事ですよ。そうですね、もつともつと寂しくなつてもつともつと人間の前に現れる。また人間に怖がられて「あそこには幽霊が出る」とか言われて心霊スポットとして忌み嫌われる場所になっていき、いわゆる浮かばれない浮遊霊となっていくんだと思えます。自分で自分の首を絞めて、苦しませなければならぬ。死してなお、嫌な念を作る事になります。これがまさに地獄の世界だと思えます。もう救いようが無い。そうならない為にも、生きているうちに神様仏様、御先祖様に手を合わせ、周りに施し喜ばれる。そして周りからも施される。そういう自分になれば良いだけの話ということになります。お墓が遠くにあつて、なかなか行けないという方もおられると思います。今年も来年も行くタイミングが全く無いという事はないと思えます。年に一回だけでもお墓参りに行くだけで、亡き親や御先祖様が喜び、ご安心されるはず。生きています。亡くなった後も、自分さえ

良い人、幸せも安穏な生活も無いといえましよう。日々の生活の中に、親先祖を想う感謝と報恩の気持ちを持って、時にはお墓参りや、先祖供養を心がけて頂ければ幸いです。

私達は、親先祖から頂いた命のバトンを大切に受け止めていきたいものです。親先祖が子や孫を想う気持ちは同じだと思えます。たとえ親不孝をしようが、反抗しようが、歯向かおうが、親が子にける想いは無償の愛情であつてほしいと思えます。我が子への想いはただ一つ。どんなに辛い事があつても、お前の人生、諦めず投げ出さず腐らずに、できれば、周りの人の助けになるような、お互いに支え合つて、豊かな人生をお前らしく、生きてくれよという念が。父母から、その子へ。そして、誰かと一緒になつて、またその子へ。その子もまた誰かと一緒になつてその子へと。未来永劫。過去から未来へと、その思いは繋がつていきます。親から子へ、そして孫へと繋がつていく想いの中で、我々は生かされています。お前の人生、諦めず投げ出さず腐らず。悪いことをしないように。できれば道の真ん中を胸張つて太陽の下を堂々と歩けるお前であつてくれというのが、親の願いじゃないでしょうか。親や、ご先祖様が悪でも、善でも、それは関係無く、いま自分に命が繋がれているのは親先祖があつたればこそです。あなたは母のお腹から産まれ、また、その父母も、その父母から産まれ、この流れは、人類誕生以来変わる事なくずーっと繋がれてきた事実なのです。そんな恩ある

親や御先祖様に感謝の念を抱かない。「先祖供養」をしないという事はどういう事なのか？それは自分の生命を軽んじている事と同じだと思えます。今一度、自分の命に思いを致して頂きたいと思えます。そんな自分を大切に、周りを大切にして、感謝の気持ちを含めて、回向供養に精進していただければ幸いです。住職や私の誂経であるに超した事はないかもしれませんが、皆さん「自身の真心で唱える」「南無妙法蓮華経」ほど、ありがたいことはないと思えます。

あなたの命の輝きが益々光輝けますように、亡き人に思いを含めて「一緒にお題目をお唱え致します。南無妙法蓮華経」

合掌 副住職 谷川寛敬

